

に群典に秀で、顯本遠壽の説は永く諸乘に絶たり。爰を以て八歳の龍女は大海より來て經力を刹那に示し、本化の上行は大地より涌出して佛壽を久遠に顯す。言語道斷の經王、心行所滅の妙法也。然に此理を在るかせにして、餘經にひとし(等)むるは、謗法の至り、大罪の至極也。譬を取に物なし。佛の神變にても何ぞ是を説盡さん。菩薩の智力にても争か是を量るべき。されば譬諭品云、若説其罪窮、劫不盡と云へり。文の心は、法華經を一度もそむける人の罪をば、劫を窮むとも説盡し難しと見えたり。然間、三世の諸佛の化導にももれ、恆沙の如來の法門にも捨られ、冥きより冥きに入て、阿鼻大城の苦患争か免れん。誰か心あらん人、長劫の悲みを恐れざらんや。爰を以て經云、見有讀誦書持、經者輕賤憎嫉、而懷結恨、其人命終入阿鼻獄云云。文の心は、法華經をよみたもたん者を見て、かるしめ、いやしみ、にくみ、そねみ、うらみをむすばん。其人は命をはりて阿鼻大城に入んと云へり。大聖の金言誰か是を恐れざらんや。正直捨方便の明文、豈是を疑べきや。然に人皆經文に背き、世悉く法理に迷へり。汝何惡友の教へに隨はんや。されば邪師の法を信じ受る者を、名て毒を飲者也と天台は釋し給へり。汝能是を慎むべし、是を慎むべし。倩世間を見に法をば貴

①然に=よむ人②盡さん=盡給はん③捨られ十(なん)④[理]一⑤信じ受る=信受する⑥名て毒を飲者也=名毒をのむ者